

県民参加型調査「かながわ暑さ調べ」

暑さ指数を用いて県内の熱中症リスクを把握し、気候変動への適応に「自分事」として取り組んでいただくため、県民参加による暑さ指数[°C]の県内一斉測定を実施。

【令和7年度の調査概要】

- ・ 調査参加希望者(200名)に県から暑さ指数計を貸与
- ・ ご自身の暑さ指数計を利用した参加(3名)
- ・ 8月の毎週火曜日午後1時に一斉に測定
- ・ ご参加いただいた方:196名



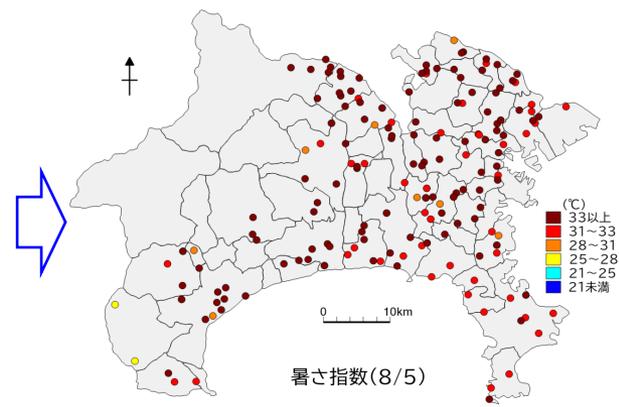
約12cm



身近な暑さを測定



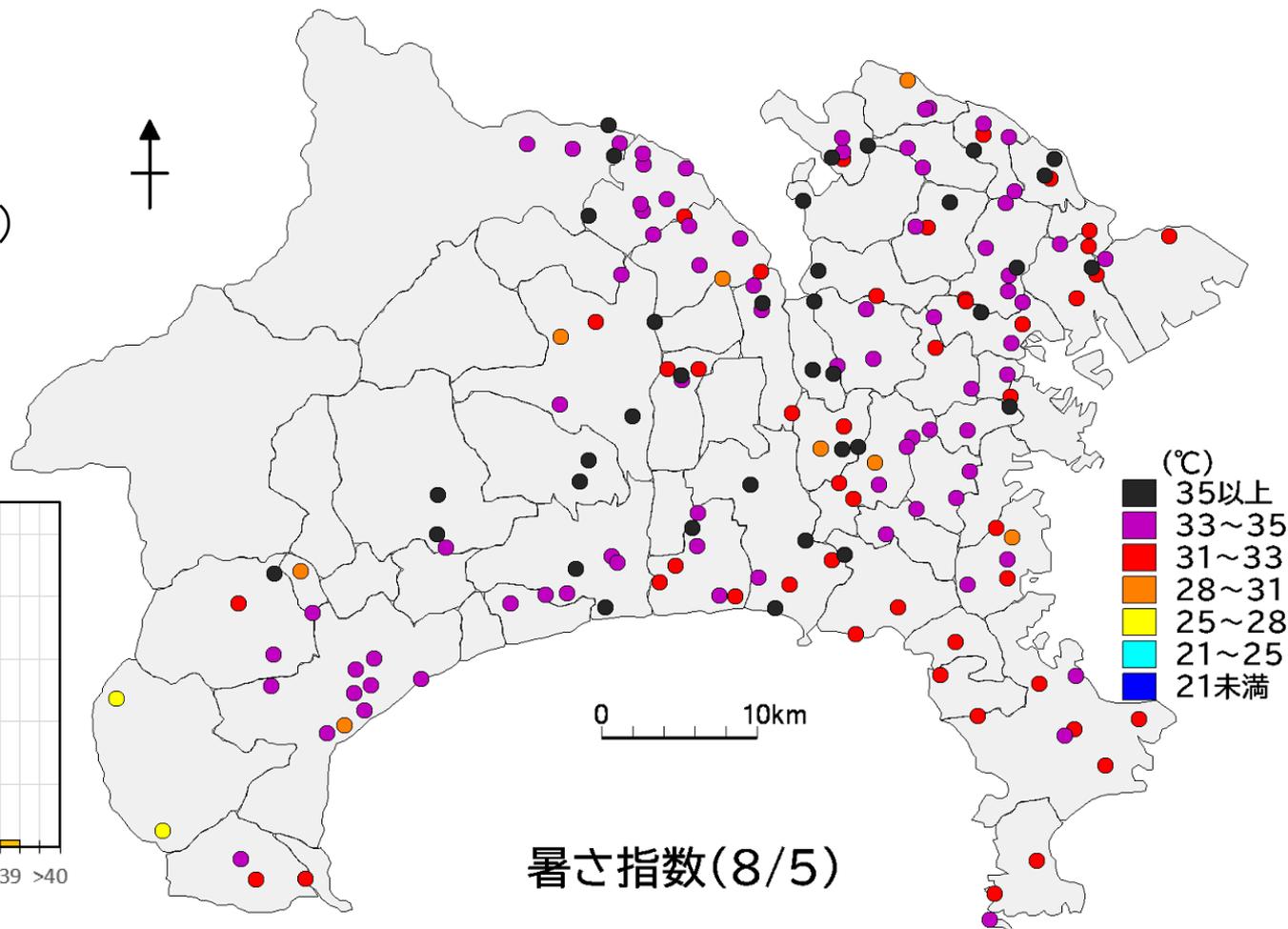
データ送信
(記録紙・ウェブ)



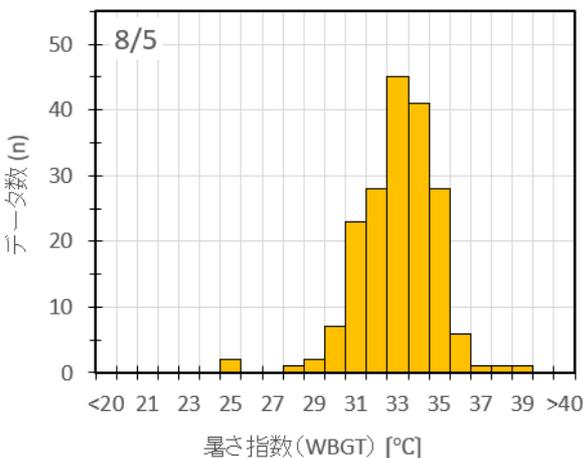
暑さの把握、
地域による違い

調査結果(県内暑さ指数マップ① 8/5)

暑さ指数マップ(⇒)と
暑さ指数の頻度分布(⇓)



暑さ指数(8/5)



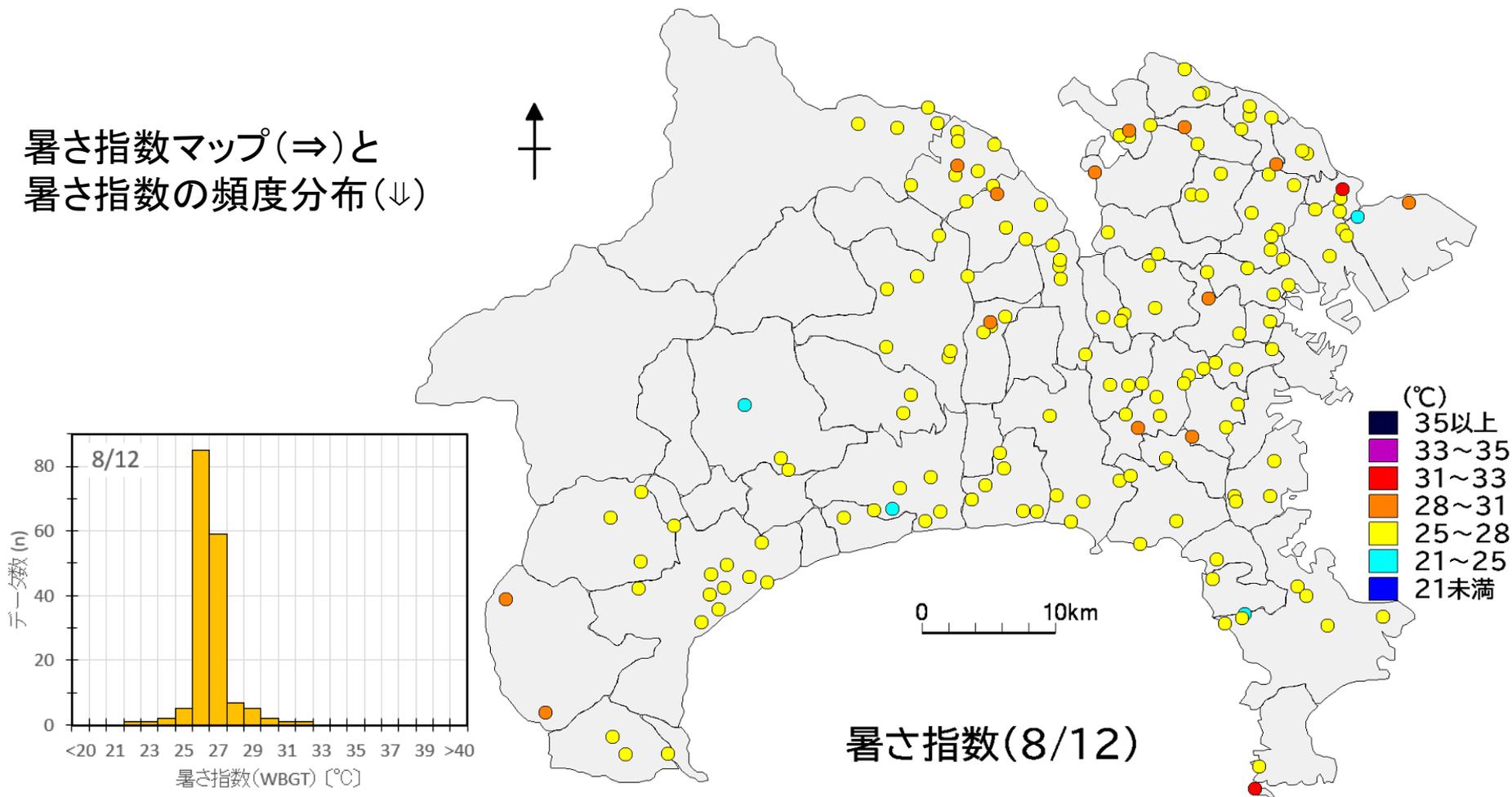
暑さ指数平均: 33.4°C (測定数186)

熱中症警戒アラート発表: **あり(晴れ)**

- 県内各地で31°C 以上(危険)となり、熱中症搬送者数が2番目に多い日(190人)となった。 ※ 熱中症搬送者数が最も多い日は8月6日(213人)

調査結果(県内暑さ指数マップ② 8/12)

暑さ指数マップ(⇒)と
暑さ指数の頻度分布(⇓)



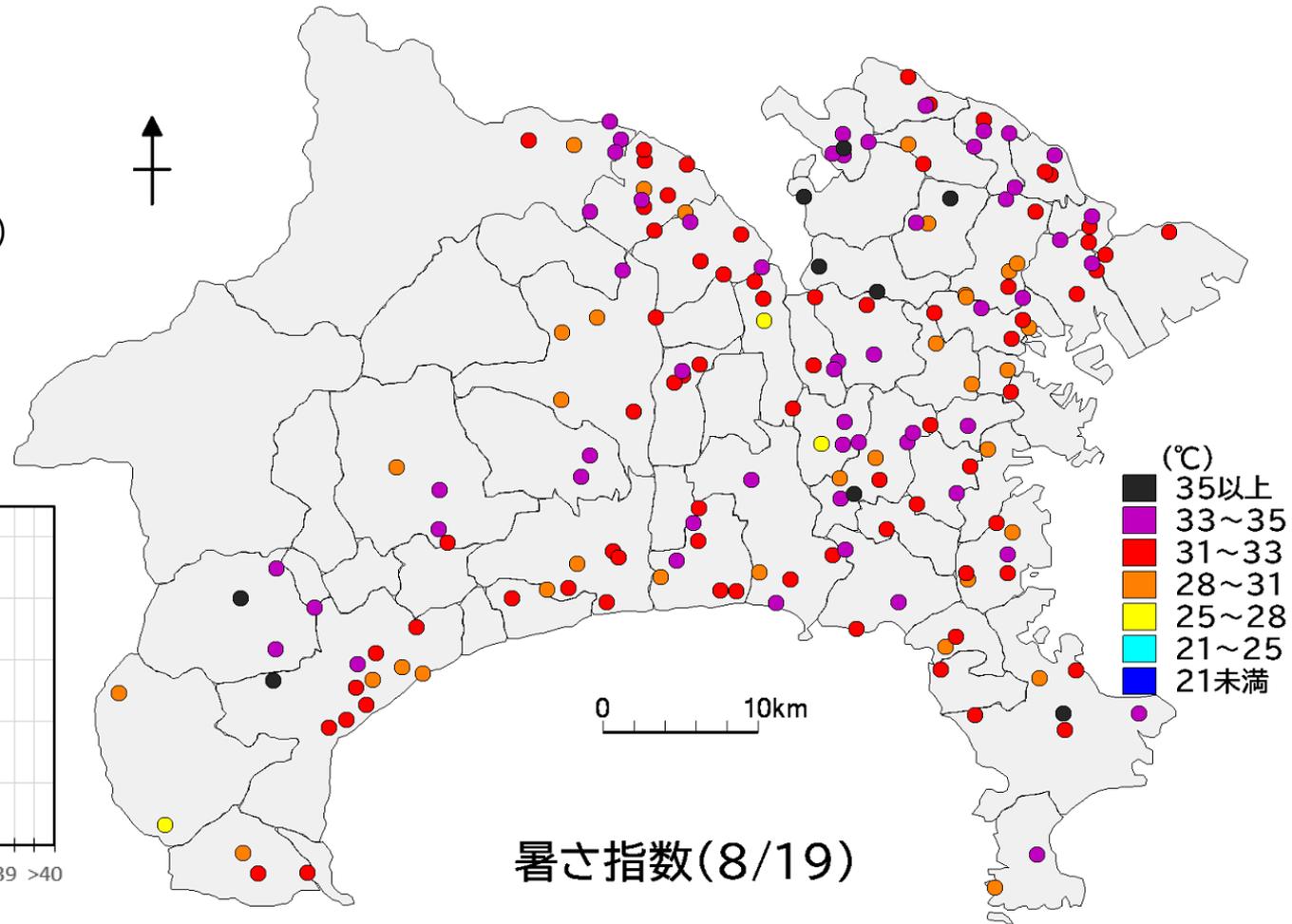
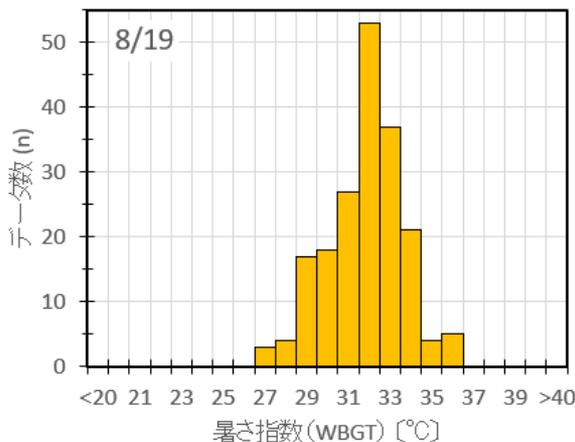
暑さ指数平均:27.0°C (測定数169)

熱中症警戒アラート発表:なし(曇り / 小雨)

- 県内各地で暑さ指数が25°C-28°C (警戒)となり、熱中症搬送者数は比較的少ない日(11人)となった。

調査結果(県内暑さ指数マップ ③ 8/19)

暑さ指数マップ(⇒)と
暑さ指数の頻度分布(⇓)



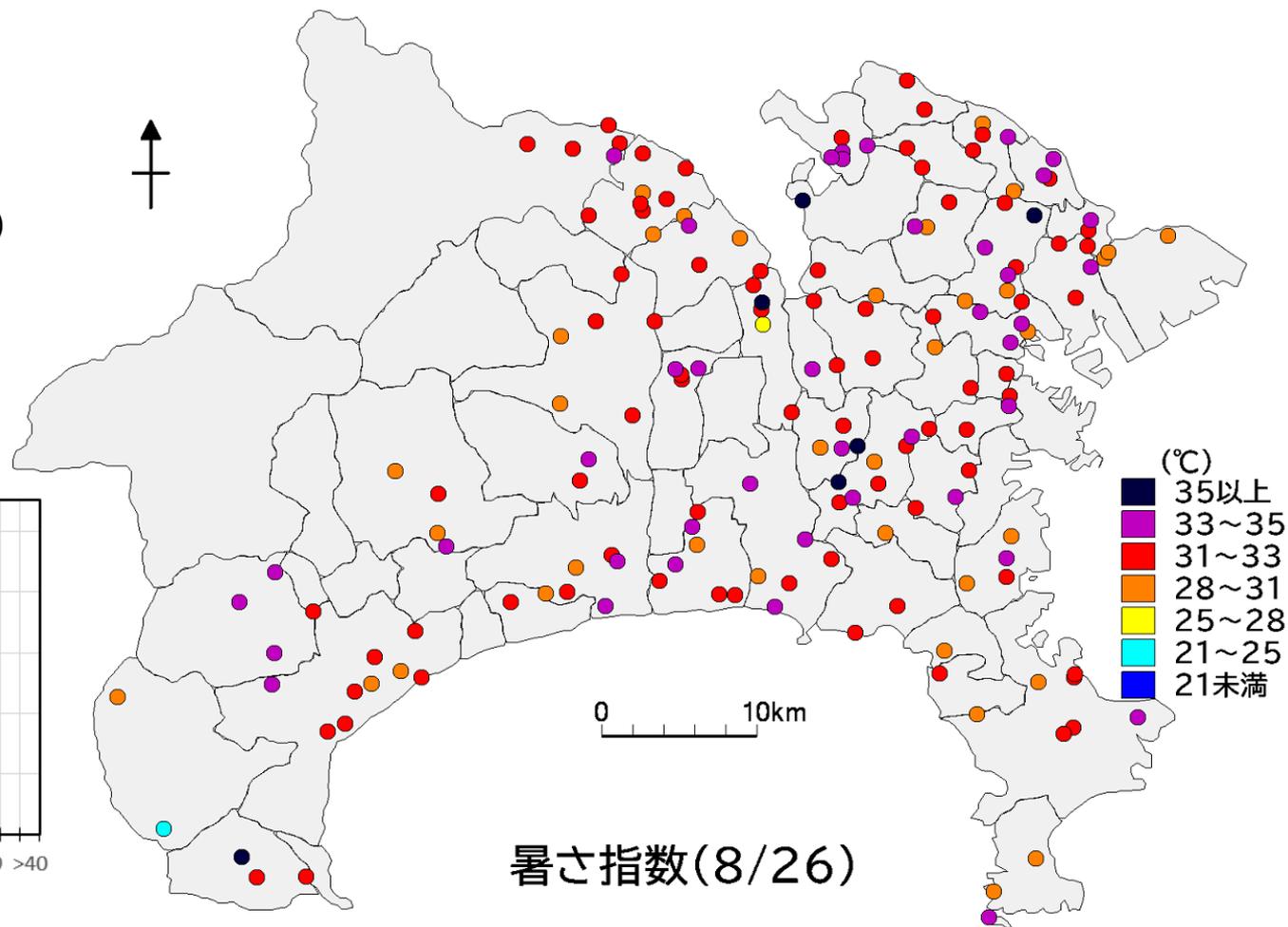
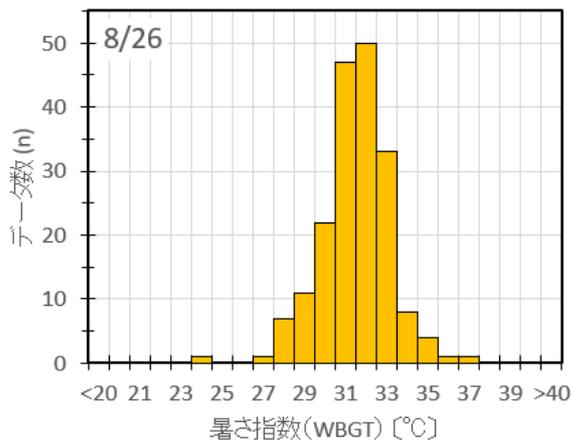
暑さ指数平均: 32.3°C (測定数188)

熱中症警戒アラート発表: **あり(晴れ)**

- 県内各地で暑さ指数31°C 以上(危険)となり、熱中症搬送者数が多い日(72人)となった。

調査結果(県内暑さ指数マップ④ 8/26)

暑さ指数マップ(⇒)と
暑さ指数の頻度分布(⇓)



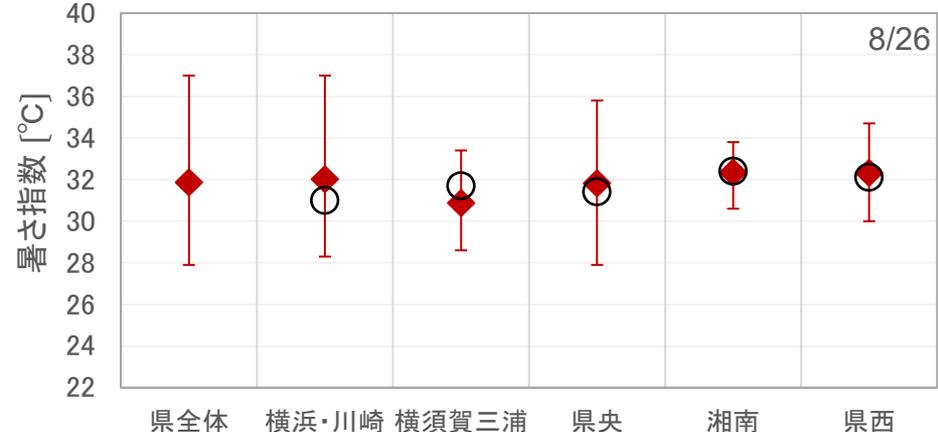
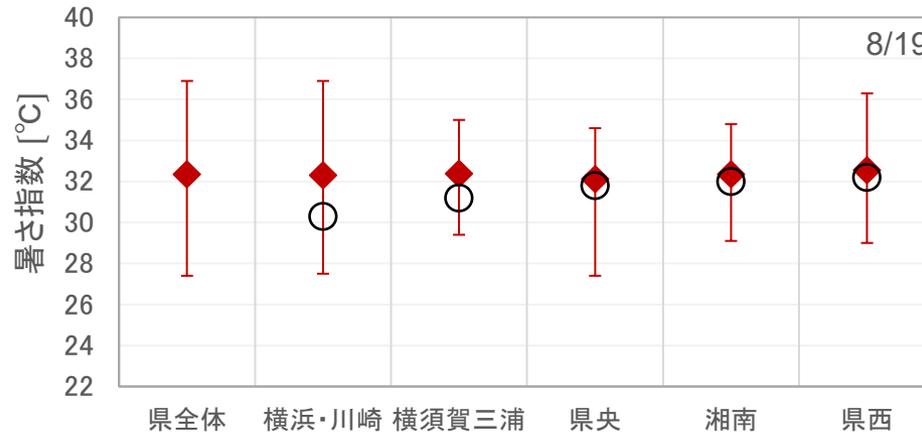
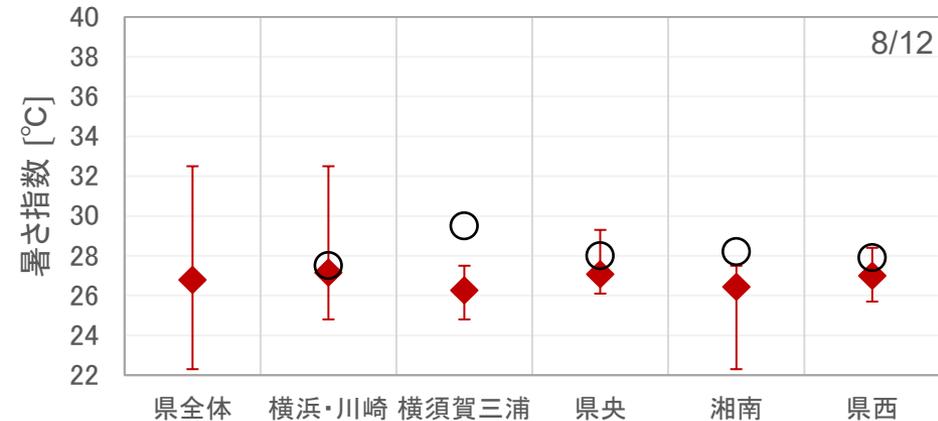
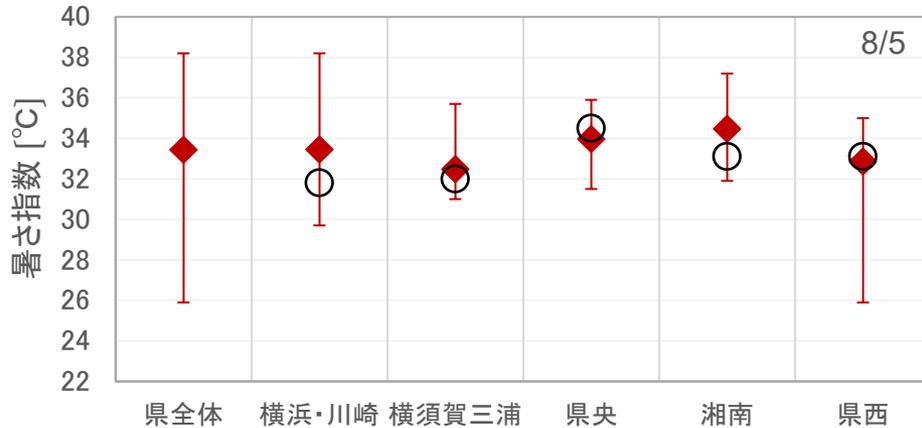
暑さ指数平均: 32.0°C (測定数186)

熱中症警戒アラート発表: **あり(晴れ)**

- 県内各地で暑さ指数31°C 以上(危険)となり、熱中症搬送者数が多い日(42人)となった。

調査結果(測定結果の地域平均)

◆ かながわ暑さ調べ地域平均 ○ 地域内の環境省データ(参考)

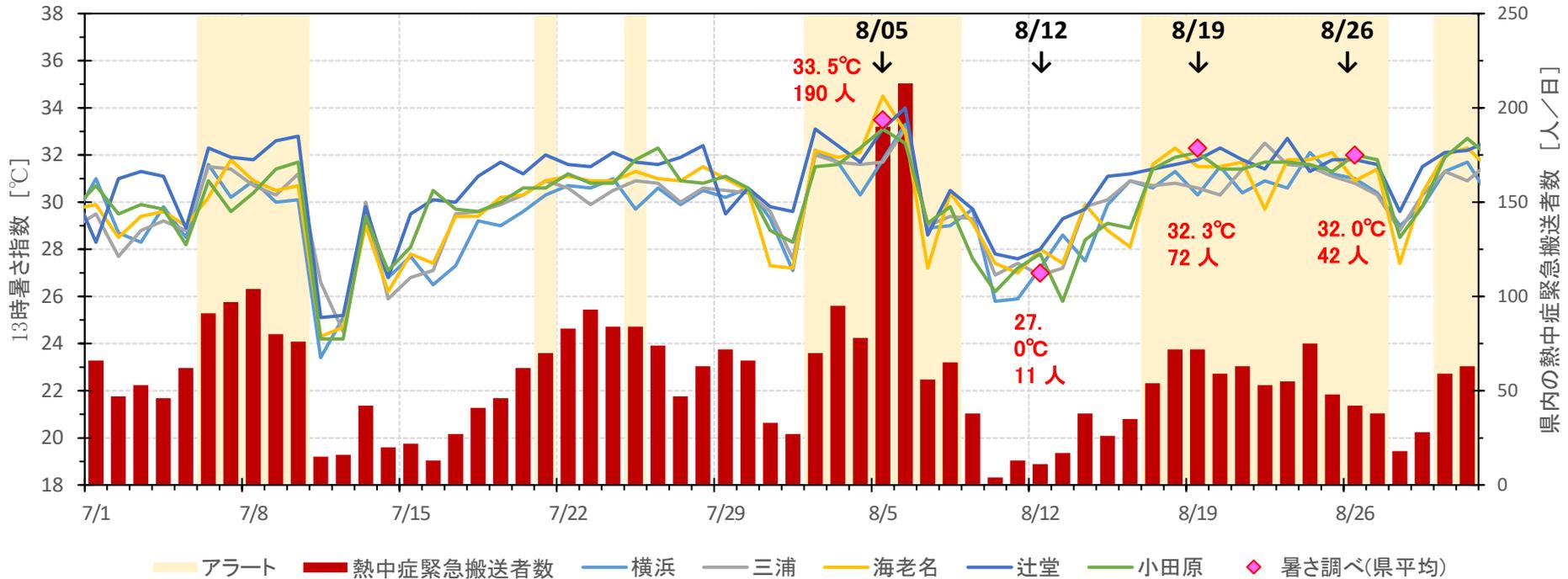


- 環境省による暑さ指数の提供地点(横浜、三浦、海老名、辻堂、小田原のアメダス地点)のデータと比較すると、8/12の横須賀三浦地域及び湘南地域を除き、各地域の平均値と近い値を取り、機器の測定誤差(クラス2: $\pm 2^{\circ}\text{C}$)の範囲内である。

※環境省データは環境省熱中症予防情報サイト(<https://www.wbgt.env.go.jp/>)の実測値(横浜のみ)及び実況推定値(速報版)を利用

調査結果（熱中症救急搬送者数と暑さ指数の比較）

黄背景：熱中症警戒アラート発表日



一斉測定日（8月5日）の搬送者数が2番目に多い（1番目は8月6日）。次週の一斉測定日（8月12日）では暑さ指数が低く、搬送者数も少ない。

※暑さ指数と搬送者数の相関があることが、あらためて確認できた。

※一斉測定日値と公式値との相関が広範囲（27.0°C～33.5°C）で確認できた。

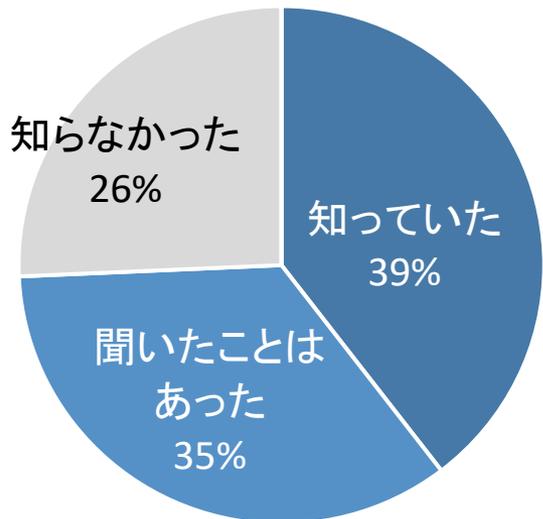
※各地（横浜、三浦、海老名、辻堂、小田原）の暑さ指数は、環境省熱中症予防情報サイト(<https://www.wbgt.env.go.jp/>)の実測値（横浜のみ）及び実況推定値（速報版）を利用し、毎日13:00のデータを抽出しグラフ化

※熱中症救急搬送者数は、消防庁熱中症情報(<https://www.fdma.go.jp/disaster/heatstroke/post4.html>)を利用

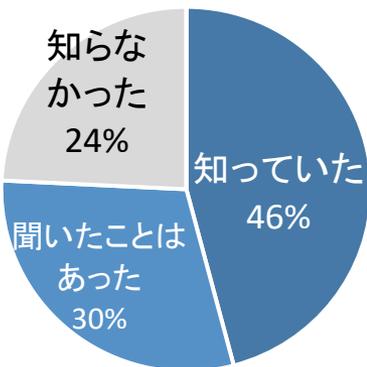
アンケート結果(暑さ指数の認知度)

【「暑さ指数」について】

当事業に初めて参加した方のみ抽出

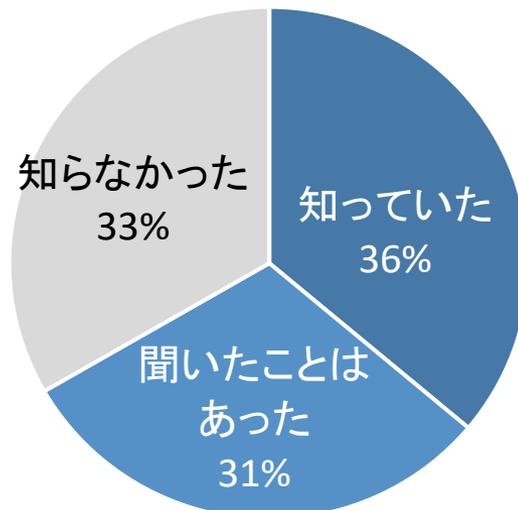


(参考)2回以上参加している方を含めた集計結果

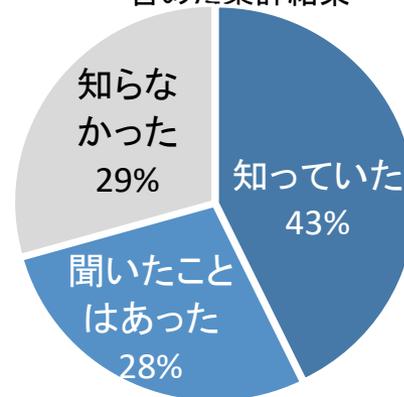


【熱中症情報や熱中症警戒アラートに「暑さ指数」が活用されていることについて】

当事業に初めて参加した方のみ抽出



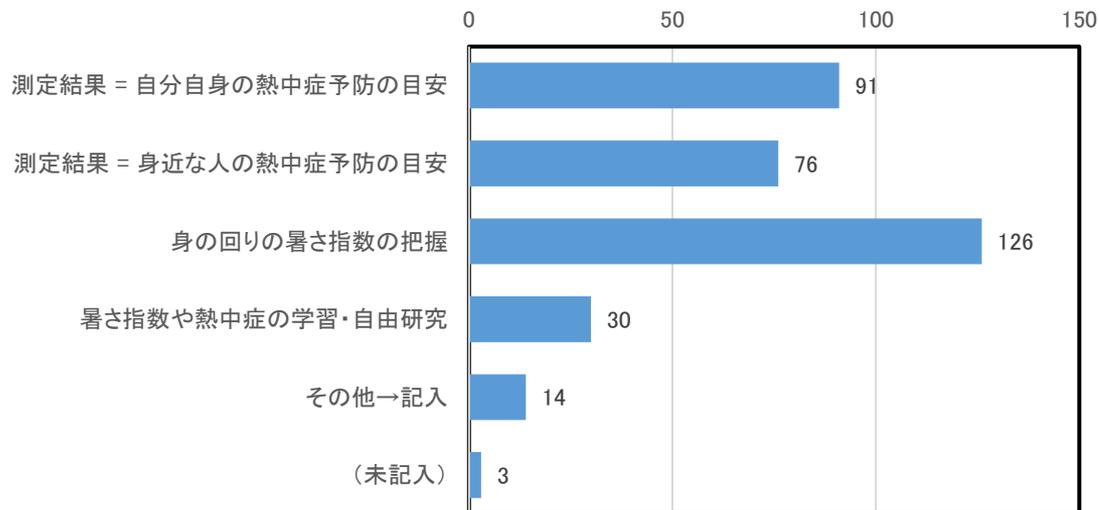
(参考)2回以上参加している方を含めた集計結果



初めて参加された方は、暑さ指数や熱中症警戒アラートについて、7割前後の方が知っている、または、聞いたことがあると回答している。(昨年よりも増えている) 今後も普及啓発に努めたい。

アンケート結果(取組み)

【一斉測定以外で暑さ指数計の利活用】(複数回答可)

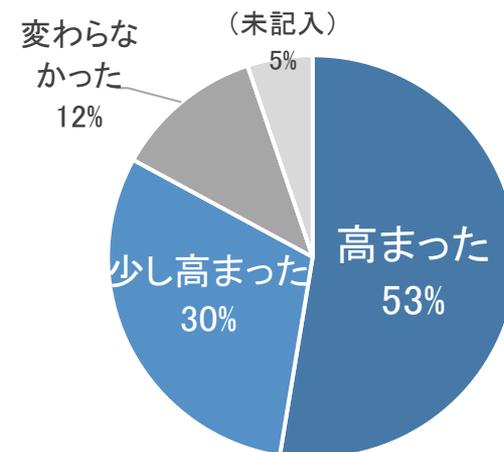


「測定結果を身近な人の熱中症予防の目安」に活用した場合における、身近な人の詳細

- ①家族・知人等:延べ 319人
- ②団体メンバー・社員:延べ 1246人
- ※合計:延べ 1565人

・身の回りの暑さ指数の把握が最も多い。
・参加者(196人)からの身近な人への浸透(1565人)は進んでいると考えられる。

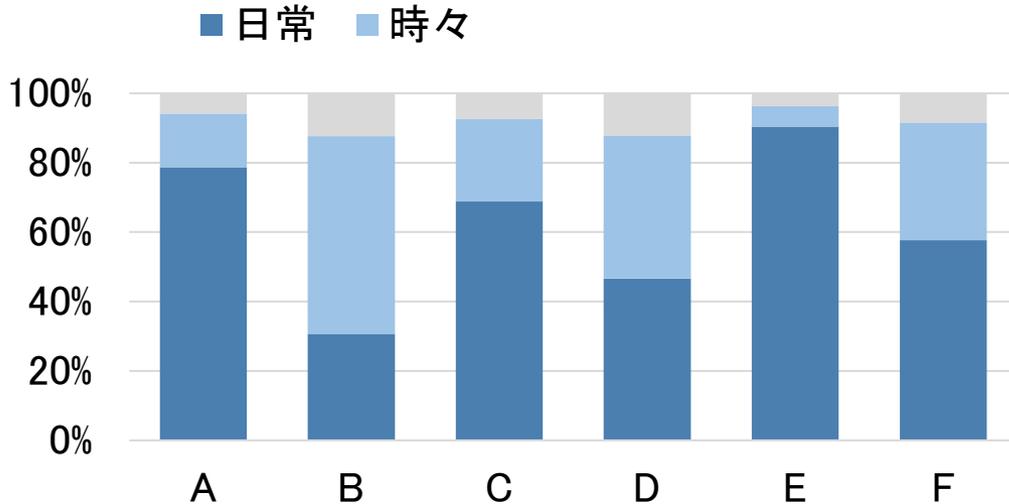
【例年との比較した今年度の熱中症予防の状況】



- ・参加者の約半数は、例年の8月より熱中症について予防したと回答。
- ・多くの方が身の回りの暑さ指数を測定・確認し、熱中症予防行動を実践している。

アンケート結果(取組み)

【今年度実施した熱中症予防行動】(複数回答可)



- ・全ての項目で何らかの行動をした人は8割以上(項目A-F)
- ・日常的に外出時に帽子をかぶるなどの行動をした人は9割以上(項目E)
- ・日常的に暑さ指数を測定した人は3割程度にとどまる。(項目B)

A.熱中症アラートや天気予報など、熱中症情報をよく確認した

B.生活や活動場所の暑さ指数を測定した

C.暑い日に外出や運動を避ける・室内空調の設定を低くするなどの行動をした

D.身近な人に、暑い日に外出や運動を避ける・空調の設定を低くするなどの行動を促した

E.外出時に帽子をかぶる・こまめに水分や塩分をとるなどの行動をした

F.身近な人に、外出時に帽子をかぶる・こまめに水を飲むなどの行動を促した

アンケート結果(かながわ暑さ調べ)

【参加者からの声(一部抜粋)】

- とても役立ちます。熱中症計は子どもたちにとって外遊びをできなくするもののようにとらえられています。それをうまく活用して、どこなら遊べるのか、休けい場所に適したところはどこかなど自ら調べ考えるためのデータがあきらかになれば、とても意識も高まると考えました。
- 暑さ指数というものが、気温ではなくもっと一般的になっていくと危険度などもわかりやすいなと思いました。知っているのと自分で計測するのでは理解度も全然ちがいました。このようなとりくみが増えていくとありがたいと思います。
- このような調べは、とても良いことだと思います。熱さは避けることはできないとしても、この調査を元に、暮らしやすさの改善点になると思います。
- WBGTについて今までよく知らなかった。学校でも教育に取り入れて子どもも大人も周知できるようになれば、対策に役立つと思う。
- 暑さ指数計を一定の高さに維持するのが難。測定するならば、三脚は必須であると感じました。
- オンライン説明会の回数を増やして欲しい。又は後から録画が見れるようにして欲しい。
- 速報結果報告のウェブサイトが使いにくかった。(設定が難、位置入力がわかりにくい 等)

まとめ

【暑さ調べまとめ】

- ・ 一斉測定日の1回目(8/5 平均33.5℃)と2回目(8/12 平均27.0℃)では大きな差がた。熱中症搬送者数も大きな差となった。⇒190人(8/5)、11人(8/12)
- ・ 環境省による暑さ指数の提供地点のデータは、ほぼ各地域の最大値～最小値の範囲内にある。

【アンケート調査結果】

- ・ 参加者の約7割が暑さ指数を認知しており、昨年より約1割増となった。
- ・ 身の回りの暑さ指数の把握をされる方が多く、参加者から身近な人へ伝えれることにより多くの人へ認知度が広がった。
- ・ 外出時に帽子をかぶる等の何らかの熱中症予防行動をした人は8割以上であった。
- ・ 参加者からは、暑さ指数の周知や活用に関する意見が多く寄せられた。

【今後に向けて】

調査結果は広く県民に公開して熱中症の注意喚起に役立てるとともに、関係各課や市町村に情報提供し、地域の熱中症対策等の検討に活用していく。

本取り組みへの応募者は今年度も多く(400人超)、関心の広がりを感じる。さらなる工夫を加えながら、来年度も継続して実施する予定である。